

近畿大学臨床心理センター平成19年度活動報告

奥野 洋子 直井 愛里 人見 一彦

I. はじめに

近畿大学臨床心理センター（以下「センター」と略す）は平成19年4月に開設された。センターは臨床心理学に関する教育・研究及び臨床活動を行い、地域社会に対するこころの相談活動・心理的援助と心理臨床の専門家の養成を寄与することを目的としている。本報告では、平成19年4月から平成20年3月までの12ヶ月間についての活動を報告する。

II. センター紹介

1. 施設について

近畿大学医学部キャンパス内（大阪府大阪狭山市）の施設に設置された。主な部屋は、面接室3室（面談室、カウンセリング室1・2）、プレイルーム1室、待合スペース、受付、スタッフルームである。

4月から8月までは開設のための整備作業を行い、8月下旬より相談業務を開始した。



2. スタッフについて

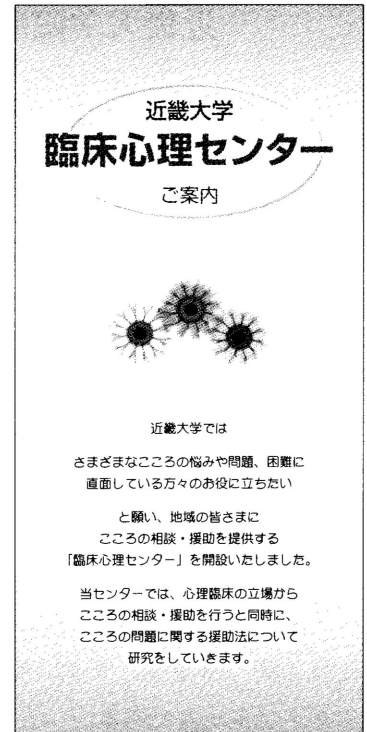
センター長、専門相談員2人（専任1人、兼任1人）、事務職員1人であった。センター長は精神科医師（精神保健指定医）であり、専門相談員は臨床心理士の資格を有している者が1人、国際応用スポーツ心理学会（AASP）認定コンサルタントの資格を有している者が1人である。

3. 相談業務開始までの主な活動

センターが開設された4月から8月までの間、センターの施設と書類整備を行い、相談業務開始準備にあたった。面接室の調度品の選定・購入、プレイルームの玩具などの購入、相談業務の各種書類作成、パンフレットとホームページの作成を行った。

近畿大学医学部附属病院との連携をはかるため、附属病院の事務部と、附属病院からの紹介と附属病院への紹介の手順について打ち合わせた。それをふまえて、附属病院から当センターへの紹介の手順をまとめ、各診療科に案内を出した。

また、臨床心理センター開設記念公開講座の広報も兼ねて、近隣の市町村（役所、教育委員会、保健・福祉センター、小・中・高等学校など）、大阪府内の関係機関（府庁、教育委員会、こころの健康総合センター、保健所、警察署、大学など）にパンフレットを送付し、大阪狭山市の教育・福祉・保健関係各所にあいさつにうかがった。



II. 相談活動状況

1. 相談業務の内容

開室時間は火・水・木曜日の10時～17時、電話受付時間は火・水・木曜日の10時～16時である。相談の種類と料金は、表1のように設定した。

初回面接(50～90分)	8,400円	(税込み)
個人面接(30分)	4,200円	(税込み)
個人面接(50分)	8,400円	(税込み)
親子面接(50分)	12,600円	(税込み)
心理検査(1種類につき)	4,200円	(税込み)

表1 相談の種類と料金

相談内容として、「子どもについての相談」、「自分自身の性格や行動にかかわる相談」、「職場・学校・家庭などでの人間関係の問題にかかわる相談」、自分の生き方にかかわる相談以外に、国際応用スポーツ心理学会（AASP）認定コンサルタントの専門性に応じられるよ

う、「スポーツ選手や指導者の心理面についての相談」、「異文化コミュニケーションについての相談」を加え、パンフレット等に掲載した。

2. 電話受付の内容

電話の受付の月別の件数と内容を表2、表3に示した。

初回面接予約となった42件のうち、来談しなかったものが3件あり、初回面接を行った39件のうち、5件は翌年度にあたる平成20年4月に行ったため、報告期間内に受け付けた初回面接件数は34件であった。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話受付件数	1	6	5	7	12	7	6	17	9	70

表2 月別電話受付件数

内訳	件数	%
面接日の予約	42	60.0
電話での相談	3	4.3
電話での回答	23	32.9
他機関紹介	2	2.9
その他	0	0.0
計	70	100.0

表3 電話受付の内容

3. 新規の相談

新規の来談者の性別、年齢、住所ごとの内訳を表4、表5、表6に示した。

報告期間内に新規の相談件数は34件で、来談者は圧倒的に女性が多く、年齢層で最も多かったのは、26～40歳の人が全体の35%、女性では40%であった。小学生以下の相談はなく、41歳以上の相談が全体で30%近くに達していた。来談者の住所では、隣接した市からの相談が半分近く占めていたが、他府県からの相談も6件あった。

性別	件数	%
女	27	79.4
男	7	20.6
計	34	100.0

表4 来談者の性別

年齢	件数	%
0～6歳	0	0.0
7～12歳	0	0.0
13～18歳	6	17.6
19～25歳	6	17.6
26～40歳	12	35.3
41～60歳	6	17.6
61歳～	4	11.8
計	34	100.0

表5 来談者の年齢

住所	件数	%
富田林市	8	23.5
河内長野市	3	8.8
大阪狭山市	1	2.9
その他南河内地域*1	4	11.8
堺市	4	11.8
その他泉州地域*2	6	17.6
大阪市	2	5.9
和歌山県内	2	5.9
兵庫県内	2	5.9
奈良県内	1	2.9
京都府内	1	2.9
合計	34	100.0

表6 来談者の住所

*1 その他南河内地域:

松原市、羽曳野市、藤井寺市、太子町、
河南町、千早赤阪村

*2 その他泉州地域:

和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町、
岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、
田尻町、泉南市、阪南市、岬町

次に、相談内容の分類を表7に示した。1件につき、複数項目が該当する場合が含まれているため、合計すると53件となっている。

「自分の性格や行動についての相談」が半分近くを占め、「人間関係の問題についての相談」が30%と多かった。年齢層ごとに見ても同様の傾向であった。「子どもの相談」、子ども以外の家族についての相談である「家族相談」を合わせた家族についての相談は全体で18%近くあり、41歳以上の年齢層になると35.3%と高い割合になっていた。また、「スポーツにかかわる相談」は1件で、「異文化コミュニケーションの相談」はなかった。今後これら専門的な相談に対応できることを広報していく必要があると思われる。

相談内容	13～18歳		19～25歳		26～40歳		41～60歳		61歳～		計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
子どもの相談	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	30.0	1	14.3	4	7.5
自分の性格や行動についての相談	5	62.5	5	50.0	10	55.6	3	30.0	3	42.9	26	49.1
人間関係の問題についての相談	2	25.0	3	30.0	7	38.9	3	30.0	1	14.3	16	30.2
生き方に関わる相談	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	14.3	1	1.9
異文化コミュニケーションの相談	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
スポーツにかかわる相談	0	0.0	1	10.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.9
家族相談	1	12.5	1	10.0	1	5.6	1	10.0	1	14.3	5	9.4
計	8	100.0	10	100.0	18	100.0	10	100.0	7	100.0	53	100.0

表7 相談内容と年齢

来談の経路を表8に示した。

医療機関からの紹介が大部分を占めており、その内23件が近畿大学医学部附属病院からで、そのほとんどがメンタルヘルス科からであった。また、附属病院のインフォメーションでパンフレットをもらっての来談が2件であった。これらは、センターが、附属病院の敷地内にあるという立地条件によるものが大きいと考えられる。身体的な疾患のために通院、治療を受けに来ている方の中で、心理的な問題を抱え、その援助を求めている方が潜在してい

紹介元	件数	%
医療機関からの紹介	24	70.6
近畿大学関連の教育機関	1	2.9
教育機関（近畿大学以外）	1	2.9
行政機関	1	2.9
パンフレット・ホームページ	5	14.7
その他	2	5.9
計	34	100.0

表8 来談の経路

るとも推測できる。ホームページを見ての来談が3件、その他の2件は地域のコミュニティ紙に掲載された記事を読んで知っての来談であった。広報活動の表れであると言えるが、地域や社会に向けての情報発信によって、センターを知ってもらうことが今後さらに重要になると思われる。

新規相談の初回面接後の処遇、継続となった来談者の面接形態を表9、表10に示した。

個人面接の面接形態がほとんどであったのは、成人の来談者が多いこと、相談内容が来談者本人のことについて以外が多いことが反映されていると推測できる。

内訳	件数
継続面接	31
初回面接のみで終結	3
他機関へ紹介にて終結	0
計	34

表9 初回面接後の処遇

内訳	件数
個人面接	22
親子面接（並行）	8
親子面接（合同）	1
計	31

表10 継続面接の面接形態

4. 面接回数と面接経過

月別に面接種別ごとの延べ面接回数と面接経過状況を表11、表12に示した。

初回面接を除いた延べ面接回数は45回だった。月別では10月から10回前後で推移し、3月には増加した。

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初回面接	3	1	4	5	5	4	5	6	33* ¹
個人面接(30分)	0	0	0	0	1	0	1	3	5
個人面接(50分)	0	5	6	2	6	4	2	4	29
親子面接(並行)* ²	0	0	0	0	0	0	0	2	2
親子面接(合同)* ²	0	0	0	1	1	1	1	2	6
心理検査	0	0	0	0	0	0	1	2	3
計	3	6	10	8	13	9	10	18	78

表11 月別の延べ面接回数

- * 1 同時にきょうだいの相談を受けたため、件数としては2件、初回面接回数としては1回と数えた。
- * 2 親子面接について、並行面接の場合1件につき面接回数は2回、合同面接の場合1件につき面接回数は1回と数えている。

内訳	件数
継続	18
終結	6
他機関へ紹介	2
中断	5
その他	0
計	31

表12 面接経過状況

5. ケースカンファレンス

平成20年3月にセンターのケースカンファレンスを開いた。参加者は、スタッフ3人と臨床心理士などの専門家4人の計7人であった。

Ⅲ. 学内の活動

1. 学内コンサルテーション

人見センター長は、近畿大学医学部精神神経科学教室、文芸学部、及び国際人文科学研究所（近畿大学コミュニティカレッジ）、メンタルヘルスアドバイザーを兼務している。

2. 映画鑑賞会

平成19年10月17日(水)近畿大学医学部大講堂において、近畿大学医学部学生、近畿大学附属看護専門学校学生、附属病院教職員に向けて「映画鑑賞と監督講演の夕べ」を開催した。上映した「Yesterday Today Tomorrow 昨日今日そして明日へ…」は、タイに暮らすHIV陽性者の家族の日常を追ったドキュメンタリー映画で、製作した直井里予監督に会場にいらしていただき、講演も行った。この映画の背景について直井監督からいただいた寄稿文は、「北タイに暮らす2家族のHIV陽性者と一緒に過ごした3年間の日々から生まれたひとつの物語『昨日 今日 そして明日へ・・・』の背景」に掲載した。

映画公式ホームページ：<http://www.riporipo.com/ytt/>



3. 講師等の依頼

平成19年4月～10月、近畿大学大阪コミュニティカレッジにおいて「精神医学講座」の講師を人見センター長が担当した。

平成19年7月に近畿大学附属豊岡中学校・高等学校からの依頼に応じ、教員研修として、「思春期の子もたち—その理解と具体的対応」についての講演を人見センター長が行った。

平成19年8月に近畿大学オープン講座(夏季教員研修講座)において、「学校で役立つ精神医学—最近の児童青年期のこころの病理について」の講師を人見センター長が担当。

近畿大学附属豊岡中学校・高等学校からの依頼に応じ、平成19年9月に奥野講師がスクールカウンセリング(ストレスマネジメント教育、保護者・教員の相談)を実施した。

平成19年10月に近畿大学理工学部からの依頼に応じ、教職員に向けた講演会において、「学生指導とこころのケア」についての講演を人見センター長が行った。

4. 附属病院・医療機関への説明


近畿大学医学部附属病院と近畿大学医学部堺病院の関連のある診療科に対して、奥野・直井講師が臨床心理センターの説明を行った。

IV. 地域への活動

1. 公開講座

臨床心理センターの開設を記念し、地域住民に向けた公開講座を平成19年8月4日（土）近畿大学医学部大講堂において開催した。大阪府教育委員会、大阪狭山市、大阪狭山市教育委員会からの後援をいただくことができ、参加者は150人余りで盛況であった。

京都ノートルダム女子大学教授・藤川洋子先生をお招きし、「子どもの育ちに大切なことーいじめ・非行への新しい視点ー」についての講演していただいた。いじめや非行に関連して、学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（ADHD）、アスペルガー症候群についての発達的な特徴や対人関係能力の問題について詳しく解説された。また、奥野講師が「子育て・発達相談の経験より」として臨床経験から得たことについて講演した。



大阪府教育委員会
後援 大阪狭山市
大阪狭山市教育委員会

近畿大学
臨床心理センター開設記念

公開講座

開催日：平成19年8月4日（土）
午後1時～3時
場 所：近畿大学医学部大講堂

司 会 近畿大学臨床心理センター長 人見 一彦

特別講演 「子どもの育ちに大切なこと
ーいじめ・非行への新しい視点ー」
京都ノートルダム女子大学教授・
元家庭裁判所調査官 藤川 洋子

いじめや非行の事例に関連して、子どもの対人関係能力が論じられることがあります。定型的な発達の子どものばかりでなく、支援が必要とされるLD、ADHD、あるいはアスペルガー症候群に対する理解を深めましょう。


司 会 近畿大学健康スポーツ教育センター・
近畿大学臨床心理センター講師 直井 愛里

教育講演 「子育て・発達相談の経験より」
近畿大学臨床心理センター講師 奥野 洋子

さまざまな子どもに関わるご自身の経験に定じた経験から、子育て中の皆さまに「この場所を創」を提供できればと思っています。

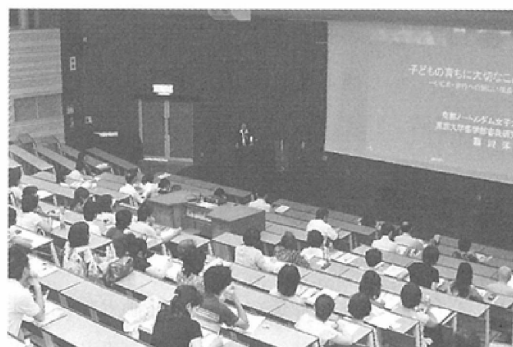
対象者：どなたでも参加できます（定員500人）
参加費：無 料（当日会場にて正午より受付）
駐車場：受付時に駐車無料券を発行

お問い合わせ先 近畿大学医学部 庶務課
☎072-366-0221 内線 2155-2156



交 通

● 近畿大学 近畿大学
● 近畿大学 近畿大学



2. 日本サイコセラピー学会の開催

人見センター長が大会会長となり、平成20年3月8日（土）9日（日）近畿大学会館（大阪市中央区日本橋）にて第9回日本サイコセラピー学会を開催した。プログラムは表13に示した通りである。のべ170人余りの参加者が集まり、有意義な発表や議論が繰り広げられた。

 学会テーマ「サイコセラピーの現状と展望－子ども、家族、成人の臨床－」

シンポジウム 1

「成人期のサイコセラピー－成人期の発達障害とどうかかわるか－」

シンポジスト 前田 研史（神戸女子大学）

大堀 彰子（帝塚山学院大学 子ども心身医学研究所）

三船 直子（大阪市立大学大学院）

会長講演

「自己に気づくこと」

講 師 人見 一彦（近畿大学臨床心理センター・大会会長）

ランチョンセミナー

共催 ヤンセンファーマ株式会社

「子どもの統合失調症の理解と支援」

講 師 飯田 順三（奈良県立医科大学医学部看護学科）

特別講演

「日本におけるサイコセラピーの歴史」

講 師 西園 昌久（心理社会的精神医学研究所）

ワークショップ

「母子の愛着形成の臨床－評価と応用－」

講 師 吉田 敬子（九州大学病院精神科神経科）

講 師 水野 智美（近畿大学教職教育部）

特別講演

「ユング派による境界性人格障害女子の夢を通じた心理療法過程」

講 師 横山 博（甲南大学人間科学研究所）

ランチョンセミナー

共催 グラクソ・スミスクライン株式会社

「コメディカルのためのうつ病最前線」

講 師 白川 治（近畿大学医学部精神神経科学教室）

シンポジウム 2

「サイコセラピーの現状と展望－子ども、家族、成人の臨床－」

シンポジスト 小林 和（精療クリニック小林）

吉川 悟（龍谷大学文学部哲学科教育学専攻）

真栄城輝明（大和内観研修所）

奥村満佐子（神戸精神分析研究所）

第9回 日本サイコセラピー学会
 テーマ「サイコセラピーの現状と展望」
 —子ども、家族、成人の臨床—

シンポジウム「成人期のサイコセラピー—成人期の発達障害とどうかかわるか—」
 シンポジスト 前田 研史 (神戸女子大学) 大嶋 聡子 (摂生山学院大学 子ども心身医学研究所) 三船 眞子 (大阪市立大学)

会長講演「自己に気づくこと」
 講師 人見 一彦 (近畿大学臨床心理センター・大会会長)

特別講演「日本におけるサイコセラピーの歴史」
 講師 西園 昌久 (心理社会的臨床心理学研究所)

ワークショップ「母子の愛着形成の臨床—評価と応用—」
 講師 高田 敬子 (九州大学臨床精神科) 水野 智美 (近畿大学看護学部)

特別講演「ユング派による境界性人格障害子どもの夢を通じた心理療過程」
 講師 横山 博 (早稲田大学心理学研究所)

シンポジウム「サイコセラピーの現状と展望」
 シンポジスト 小林 和 (精華女子大学) 吉川 信 (近畿大学文学部心理学教育学科) 高岡 誠博 (大阪府立大学) 奥野 洋子 (近畿大学臨床心理センター)

●プログラム
 3月8日(土) (10:00～17:40)
 シンポジウム「成人期のサイコセラピー—成人期の発達障害とどうかかわるか—」
 前田 研史 (神戸女子大学) 大嶋 聡子 (摂生山学院大学 子ども心身医学研究所) 三船 眞子 (大阪市立大学)
 会長講演「自己に気づくこと」
 人見 一彦 (近畿大学臨床心理センター・大会会長)
 特別講演「日本におけるサイコセラピーの歴史」
 西園 昌久 (心理社会的臨床心理学研究所)
 一般講演会 (15時～)
 3月9日(日) (10:00～17:00)
 ワークショップ「母子の愛着形成の臨床—評価と応用—」
 高田 敬子 (九州大学臨床精神科) 水野 智美 (近畿大学看護学部)
 特別講演「ユング派による境界性人格障害子どもの夢を通じた心理療過程」
 横山 博 (早稲田大学心理学研究所)
 シンポジウム「サイコセラピーの現状と展望」
 小林 和 (精華女子大学) 吉川 信 (近畿大学文学部心理学教育学科) 高岡 誠博 (大阪府立大学) 奥野 洋子 (近畿大学臨床心理センター)
 大会総括：理事長 牛島 定雄

●一般演題募集
 ① 抄録 5000程度
 英語タイトル、氏名、所属、連絡先を明記下さい。
 ② 送付方法
 メール送付は敬請人の方アドレス (Eメール) を宛先、
 e-mail : psycho1999@seronshou.co.jp
 郵送先：日本サイコセラピー学会事務局
 〒54-0005 東京都港区南青山2-13-32
 (後) 信越時報社出版部書籍課宛
 ③ 締め切り日 2007年12月28日(木) 迄

●開催概要
 会期 2007年3月8日(土)、9日(日)
 会場 近畿大学会館 多目的ホール Ⅱ(6421)061
 (近畿大学南校区南1-19)
 懇親会会場 大阪府立ワンテンホテルプラザ
 大会会長：人見一彦 (近畿大学臨床心理センター)

●参加お申し込み方法
 お名前、お立場を明記し、e-mail・FAX・TELでお申し込み下さい。なお、お問い合わせ、当学会への入会もお受けしています。
 e-mail : psycho1999@seronshou.co.jp
 TEL 03-3424-9099 FAX 03-3424-9079
 参加費 一般 7000円 会員 5000円 大学生 3000円
 年会費 5000円 (学生会社が代行されます)



3. 広報活動

インターネットが普及し、情報を検索することが多くなったことを考え、ホームページを作成し、広く知ってもらえるようにした。近畿大学のホームページと近畿大学医学部のホームページにリンクを張ってもらい、両ページからアクセスできるようにした。(ホームページアドレス：<http://ccpc01.cc.kindai.ac.jp/psychology/index.html>)

地域のコミュニティ紙に、センターの紹介記事が掲載され、附属病院インフォメーションにセンターのパンフレットを置かせてもらい、地域の方々、病院に通院している方々に知ってもらえるようにした。公開講座、日本サイコセラピー学会、相談員が関わった研修会・講演会などにおいて、センターのパンフレットを配布した。

4. 地域の公的機関・医療機関への訪問活動

地域の関連機関へのセンター広報とネットワーク作りを兼ねて、大阪狭山市教育委員会、福祉課、関連施設、地域の病院を訪問した。

5. 講師の依頼

平成19年5月、第103回日本精神神経学会総会において、精神医学研修コース「精神療法の基本」について人見センター長がコーディネイトした。

平成19年7月、奈良医科大学において精神医学「精神療法」について人見センター長が

講義した。

平成19年8月、平成19年度楽学舎第3回学習会において「ナースのメンタルヘルス」について人見センター長が講演した。

平成19年10月、第19回内観ワークショップ奈良において「混迷する現代をどう生きるかー精神医学の立場から」について人見センター長が講演した。平成19年12月、第18回近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会において、「身体の病気と自我の発達について」について人見センター長が講演した。

平成20年3月、財団法人田附興風会北野病院看護部の依頼に応じて、「新人助産師教育指導者への精神的サポート」に関するコンサルタントを奥野講師が行った。

V. おわりに

センターが開設されて1年、相談業務を開始してから約半年経った。施設もシステムもないところからスタートし、整備・準備をし、学内の各部署との連絡・調整を行ってきた。スタッフも少なく、構築途中の中、まずまずの滑り出しであったのではないかと考える。2年目はスタッフも増え、互いに協力、切磋琢磨しながら、心理臨床の充実を図っていきたいと思う。また、医学部キャンパスという立地を生かし、医療と連携しつつ、心身の疾患を抱える方やその家族への心理的援助を提供していくことも大切ではないかと考えている。